

しば子先生の

三三三 芝生教室



先生：前は「固相」「気相」「液相」の比率を学んだわね・・・

生徒：はい、それぞれ 50%、25%、25%の比率が植物にとって良い土壌と言う事です・・・

先生：その通りね・・・簡単に言えば50%が個体の部分で残りの50%は空間であると言う事ね・・・土壌中の空間には水と空気が半分ずつあって、水の量によって空気の量も変わると言う事なのね・・・ではその個体の部分の50%について話を進めましょう・・・その個体の部分には何があるのかしら？

生徒：個体の部分に・・・？・・・それは土壌がある・・・？

先生：土壌は空間の部分も含むわけだから、正確に言えば土壌の「粒子」があるところだわね・・・

生徒：そうですね、土壌粒子の部分が個体で、その粒子と粒子の間が空間になるわけですよね・・・

先生：そのとおり・・・じゃあ土壌粒子の種類はどんなものがあるかしら・・・？

生徒：土壌粒子の種類・・・ですか？・・・白いとか黒いとか・・・ですか・・・？

先生：何を言ってるのよ・・・『大きさ』でしょ！

生徒：大きさ・・・？

先生：そうよ、土壌の物理的、化学的条件に最も大きいインパクトを与える土壌条件こそ土壌粒子の『大きさ』なのよ！

生徒：そ、そうなんですか・・・！でも大きさが違うだけでそんなに大きなインパクトなんてあるんでしょうか？

先生：そうね、地上に住んでいる人間には経験則として理解することは

不可能かもしれ

れないし、土壌の粒子はぎりぎり目に見えるものから目に見えない小さなものまでかかっているから、きちんとした知識がなければ経験則では理解できないわね・・・それが土壌の複雑で難解で難しいところなのよ・・・

生徒：なるほど・・・

先生：上の表を見て、土壌の粒子で一番大きい物は『砂』ね、そ

れは直径が2mmより小さいものを言うのよ・・・

生徒：なるほど、2mm以上は砂利で土壌粒子には入らないんですね・・・

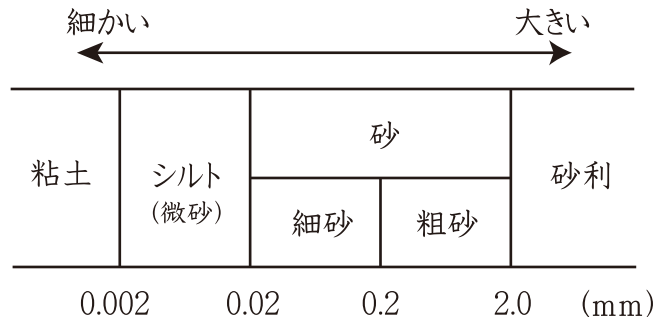
先生：そのとおりよ、これはあくまでも植物を育てるための「土壌」を考えるとときの基準だから一般生活の用語とは違うかもしれないわね・・・

生徒：なるほど・・・

先生：その土壌を構成する一番大きい粒子の直径2mmの砂粒から、その10分の1、100分の1、1000分の1の大きさの所でそれぞれ呼び名を変えているのよ・・・これはそれぞれの国の土壌学会で若干違う分類法をしている場合もあるけれど基本的には考え方は一緒ね・・・

生徒：よく『粘土』と言われるのは、土壌学的には0.002mmの粒子つまり砂の1000分の1の大きさ以

《土壌粒子の粒径区分》



下のことを言うんですね・・・

先生：そういうこと、ずいぶん小さい粒であることはわかってもらえたかしら・・・

生徒：はい、でもそれが土壌に重大なインパクトを与えることになるんですか・・・？

先生：そう、重大な事を引き起こすのよ・・・特にこの『粘土』がとても大影響なのよ・・・じゃあそれは次回説明することにするわね・・・

しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・
shibako@hugh-enterprise.co.jp

